

2018年 活動報告

タンザニア眼科支援チームは2018年5月28日から6月2日まで、第14回目となる現地での支援活動を行いました。今回は小嶋義久先生（小嶋記念病院副院長）、浅見哲先生（眼科三宅病院副院長）らが中心となって、以下の5項目の活動をすすめました。

- 1) 検眼セット、点眼薬などの眼科薬剤、メスなどの消耗品を寄贈（合計金額約1000万円相当）
- 2) 日本人眼科医による講義3題
（山崎医師：How to improve phaco surgery、小嶋医師：Some Points of PEA、浅見医師：The importance of disinfection in cataract surgery）
- 3) 医療機器のメインテナンス、寄贈機器のセットアップと使用および管理指導、これまでに寄贈してきた眼科医療機器の修理点検、管理指導など（竹内護氏、竹内建司氏ら）
- 4) 超音波白内障手術の模範手術公開、現地眼科医への手術指導（小嶋医師、浅見医師）
- 5) 眼科医がいない郊外の診療所での眼科健診

今年も昨年同様5～6月に現地を訪問しました。この時期は比較的若い医師たちが大学で研修をしており、講義や実地指導の場で以前よりも活発で熱心な質疑応答がみられました。若い眼科医たちが積極的に超音波白内障手術の普及に関心を示していることは大きな手ごたえだと感じています。今回も現地のテレビ、新聞社より取材があり広く報道されました。また、昨年に続いて眼科医がいない郊外の診療所での眼科健診を行いました。その他にも、在タンザニア日本大使館の吉田大使よりご招待をいただいた大使公邸での食事会、サファリ観光など盛りだくさんの内容でした。

活動回数を重ねるごとに現地関係者との信頼が深くなることを実感しますが、環境の違いによる相互理解の難しさも感じます。これからも我々の活動が微力ながらもタンザニアの眼科医療発展のために協力できればより良いと考えております。

（報告者、山崎俊 GEG05212@nifty.com）



現地での新聞報道



オペ室にて



大使公邸での食事会